

東京浅草中央ロータリークラブ

【週報】平成18年6月21日発信

第993回例会 第979号

会長:中村 義英 副会長:長沼 一雄 幹事:片岡 邦夫 会報委員長:藤野 勝彦

〈2005-2006年度テーマ〉

- ・超我の奉仕
- ・超我の奉仕
- ・20周年を迎えて、更に大きく『愛』の輪を

RI会長 カール・ウィルヘルム・ステンハマー
2580地区ガバナー 古宮 誠一
クラブ会長 中村 義英

今日の卓話

◎次回卓話予定(6月21日)

「クラブ協議会」

夜間例会

次年度事業計画発表

「1年を振り返って」

進行 : 次年度幹事 永井健一

中村会長・片岡幹事

〈6月の卓話予定表〉

6月 7日	「俳句の話」	俳人	奈良文夫 様
14日	「M&Aの話」	(株)日本M&Aセンター	副部長 福井 順 様
21日	〈クラブ協議会〉 次年度事業計画発表		
28日	「一年を振り返って」	中村義英 会長、片岡邦夫 幹事	

年間出席100%

藤田喜太郎君/1回 ・小林雅純君/10回 ・大塚清君/3回 ・矢野幸士君/6回

【平成18年6月14日 第992回例会の記録】

【会長報告】〈中村会長〉



サッカーワールドカップのオーストラリア戦の負け、残念でした。俄かサッカーファンの私も最後までテレビにかじりついて応援をしました。次回のクロアチア戦に期待しましょう。今年度マルメ・コペンハーゲンRI国際大会が11日開幕されたそうです。参加国はおよそ130ヶ国だそうです。大会のテーマは「世界に橋を架ける」です。

〈次期北分区ガバナー補佐〉 〈次期北分区幹事〉

また、本日は次期北分区ガバナー補佐小勝善一郎様と次期北分区幹事の大森一明様が挨拶に来られました。

【幹事報告】〈片岡幹事〉

豊島東RCの創立20周年記念として会員職場における職業関係資料集として、職業奉仕委員会活動の一つとして各自の会社の「社是」「社訓」「経営方針」「企業理念」「業務指針」をまとめた小冊子がきておりますので回覧致します(職業奉仕活動にお役立てください)東京東久留米RC創立35周年記念誌が送られて来ておりますので回覧致します。本日、例会終了後2F事務室に於いて理事・役員会を行います。次期理事・役員の方もご出席宜しくお願い致します。

次期北分区ガバナー補佐 小勝善一郎様

次期北分区幹事 大森一明様 ……次期IM開催のお知らせに参りました。皆様奮ってご参加お願い致します。

【委員会報告】

〈社会奉仕委員会・吉沼委員長〉

6月17日、午前10時より隅田公園においてアジサイの植樹式を行います。皆様の出席をお願いします。

〈出席委員会・大塚委員長〉

来る6月17日(土)午前10時から隅田公園東武鉄橋北側でアジサイの植樹式が行われます。この行事に参加された会員の皆様はメーキャップの対象となりますのでふるってご参加ください。

〈永井次年度幹事〉

来週21日は、次年度事業計画の発表があります。委員長の方は出席お願い致します。尚、委員長欠席の方は代理の氏名をお願いします。

〈青少年委員会・太田君〉

先日、グループメールで流しました長島奨子さんの出発日が決まりました。成田出発8月23日のエバー航空です。集合は出発時間2時間前、エバー航空チェックインカウンターのチェックイン後の出口あたりです。お時間がある方は是非、ご集合ください。

〈親睦委員会・小林(雅)委員長〉

6月25～26日の親睦旅行の確認について。最終案内を次回例会でご案内差し上げますので宜しくお願い致します。

来訪者数	例会出席報告	会員出席率
ゲスト3名 ビジター 7名	第991例会	総数50名, 出席44名, 欠席3名, 出席率 93.62%
	第989例会	修正変更/5名欠席 出席率89.13%(免除 2名)

ニコニコボックス

■北分区ガバナー補佐 小勝善一郎氏
次年度いろいろお世話になります。又ご協力・ご指導の程宜しくお願い致します。

■中村会長・片岡幹事・岩戸君・長沼君
小勝善一郎北分区次年度ガバナー補佐、お忙しい中クラブ訪問有難うございます。

■上原君
本日卓話をして頂く、福井順様をご紹介致します。

■宮沢君・植木君・遠藤君・原田君・海内君・天笠君・松崎君・長沼君 / 福井様、当クラブへの連続のお越し有難うございます。本日の卓話を楽しみにしております。

■天笠君・伊石君・斎藤君
福井様より寄贈を頂きました。「会社譲渡の事がわかる本」三名共出来るだけ高額売却できる会社を創る努力をします。

■岩戸君
7月17日、海の日に28階のベルヴェデーレでライブ(ハワイアン)をやりませう。親睦活動の企画に入れていただきました。お揃いでのご参加をお待ちしております。

■井田君・上野君・植木君
委員会からの要望もあり、卓話を依頼しておりました岡野加穂留先生がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

■上原君・須藤君・吉沼君
お陰様で、鳥越祭も無事終わりました。雨の加減も火照りを冷やすのに丁度良かったです。

■山尾君
吉沼さん、大塚さん鳥越祭をドタキャンしてすみません。三社祭が終わったら全て終わりのような気がして…。

■吉田君・大塚君・宮村君・松崎君・中村君
吉沼さん、鳥越祭では大変お世話になりました。

■大塚君・小林(雅)君・藤田君・矢野君
年間100%出席の表彰を頂きまして有難うございました。

■田村君
やっとまた、木曜日の休みを取り戻すことが出来ました。週休2日制は体が楽です。ロータリーのゴルフも今年は皆勤で頑張ります。

【卓話】

「M&Aの話」

株式会社 日本M&Aセンター

副部長 福井 順 様



「今、何故M&Aなのか？～中小企業におけるM&Aの実際」

日本全国には中小企業が250万社あるといわれているが、それらの経営者は大方が戦後創業し21世紀に入って世代交代を迎えている(60歳以上の経営者)。しかし、その半数が、後継者が不在もしくは決まっていないう企業である。

実際に、息子さんがおられても、一流企業に就職されて出世を果たしていたり、弁護士や公認会計士、医者、音楽家など才能ある職業に就いたりして、今更、

本人に家業を継ぐ気が無いケースはよく聞く。また反対に、父親からみて息子には社長を継いで会社を発展させていくだけの能力やパワーがないと判断する場合もある。

先日も、ある社長が来られて「自分が父から会社を継いだ40年前は、継ぐことが当然と思って半年間だけ抵抗して入社したが、息子は30になっても何も言って来なかったのてついに痺れを切らし話をしたら、息子には全く継ぐ気などなかった」。その社長はショックを受けて妻にそれを話したらアッサリと「あの子には無理よ。そんなこと私はとっくに知っていたわ」と言われたとか。だいたい、父と子は一般にコミュニケーションが悪いもので、黙っていても分かっていると錯覚している。その点、母と娘は日々コミュニケーションが活発でこういう事は起きにくい。

以前と違って、会社経営者を継承する経済的メリットが現象していることも大きな要素である。24時間365日、会社経営者は夜寝ていても頭の中は会社の事を考えている。元日ですら寛いでいるの午前中くらいである。家屋敷を担保に入れ銀行からの借入れに個人補償もしている。方や大企業のサラリーマンは、高給で土日がユックリ休め個人補償など有り得ない。福利厚生も充実していれば敢えて家業を継ぐ理由が減ってきている。

中小企業の出口は、上場するかM&Aで会社を売るか二つに一つしかないが、前者は年間200社しか出来ない難事業であるので、M&Aしかないということになる。それ以外は廃業・清算・倒産しかない。M&Aとそれらとは経済的にも天国と地獄で、従業員(家族も入れたら3倍)の生活を守ってあげられるか解雇しなければ池なのでは大違いである。そんな会社の従業員には住宅ローンを組んだばかりの若手社員もいれば大学受験を控えた息子を持つお父さんも、また介護が必要な老親を抱えた人もいるだろう。

昨年来のM&Aブームで新聞紙上には連日のように大企業同士のM&Aが華々しく掲載されているが、日系産業新聞等を見ると、以外にも中堅・中小企業同士のM&Aの記事が載り、その数が今や年間2700件と言われている。当社でも年間50件の企業との友好的「お見合い結婚」の仲人をしていく。毎週契約がある計算になり大変忙しい。

最近、時代が変わってきたと思われるのは、早くから会社を興し成功し、早く譲渡するほど成功者とみられるような欧米型の反応が日本でも増えてきている。以前、譲渡を仲介したお客様が友人の経営者を連れて来るケースもある。

買い手にとっては、景気回復とは言いながら、勝ち負けがハッキリする厳しく不透明な時代が続いている中で、本業の更なる拡大発展の為に、M&Aで会社を買う。又は縮小気味の本業を打破するたに新規事業に打って出る目的で会社を買う。時間を買うことで新規事業の選択・準備・人材の教育・事業開始というリスクを最小限にするのである。

この様にみて行くと、売り手の立場、また買い手の立場に立つとき、中小企業も含めたあらゆる企業に取り、M&Aは避けることが出来ない企業戦略ということが出来よう。

一部上場クラスのサラリーマン経営者には、中々中小企業のオーナーの気持ち分かり難く、当社は先ず会社と会社の相性があることを最も重視し、次が譲渡価格となる。これが反対だと中々上手く行かない。男女の見合い結婚と一緒にある。売り手の社長が決まって「従業員が幸せになる相手を探して下さい」と言われ、私たちが何時も心を打たれる場面です。

これからも、少子高齢化でますます後継者不在企業が増えてゆく中、今迄の日本の高度成長を支えてきた中小企業を後世に残し、更には発展させてゆく事が重要なのは明白である。当社はこれからもオーナー経営者の代仕事である「企業の存続と発展」の為に日夜奔走してゆきたいと思っている。